文化庁委託事業　令和５年度障害者等による文化芸術活動推進事業　精神障がいのある人の表現活動推進事業

文化庁

# シンポジウム
# 「共に生きる社会ってなに？～表現やアートができること」

地域には、障がいのある人、障がいのない人の暮らしがあります。生きづらさを抱えることは障がいのある人もない人にもあると思います。地域で暮らす障がいのある人は特別な人でしょうか。
すべての人が共に生きやすい社会にしていくために、表現やアートの現場で何が起こっているか、そしてこれからできることについて一緒に考える機会にしたいと思います。

日　時
**7月22日［土］**　（2部　休憩を含む）**13：00－16：00**

参加費
**無　料**

会場（裏面に住所、問い合わせ先明記）
**シアターねこ**

申込みフォーム
https://forms.gle/AYNdWXBvz48cm1cW9
申込みフォームサイト

主　催：文化庁　NPO法人シアターネットワークえひめ
協　力：NPO法人アートNPOリンク、医療法人社団 味酒心療内科、社会福祉法人 きらりの森、一般財団法人創精会 地域活動支援センターステップ
愛媛県障がい者アートサポートセンター、就労継続支援B型事業所 風のねこ

## 第1部　13：00－13：45
### 「OUTBACKアクターズスクールの活動紹介」

進　行
**大澤寅雄**（文化生態観察/NPO法人アートNPOリンク理事長）
ゲスト
**中村マミコ**（OUTBACKアクターズスクール校長）

OUTBACKプロジェクトは、精神的に不調を抱える人たちを様々な手法でサポートする団体として、KP神奈川精神医療人権センターの関連事業として立ち上がり、独立しました。その柱となるOUTBACKアクターズスクールは、精神的に不調を抱える人たちが、演劇活動を通して、自身の生き方、社会のあり様を問い直し、表現力、発信力を身につけていく場として活動しています。
2021年4月に開校、横浜を中心に活動しています。約20名のメンバーが俳優らとともに毎回10回以上のワークショップを積み重ね、既存の台本を使わず、メンバーの体験をもとにオリジナルの劇を創作します。2021年、2022年と開催している主催公演は超満員札止めの大成功を収めました。今年は、9月の松山公演に向けて作品づくりの真っ最中です。

## 第2部　14：00－16：00
### 「共に生きる社会ってなに？～表現やアートができること」

進　行
**戸舘正史**（文化政策/アートマネジメント）
ゲスト
**大澤寅雄**（文化生態観察/NPO法人アートNPOリンク理事長）
**土谷　享**（美術家）
**中村マミコ**（OUTBACKアクターズスクール校長）
**森　真理子**（厚生労働省 障害者文化芸術計画推進官）

進行・ゲスト
**プロフィール**（五十音順）

**大澤寅雄**（文化生態観察/NPO法人アートNPOリンク理事長）
合同会社文化コモンズ研究所代表、NPO法人アートNPOリンク理事長、日本文化政策学会理事。慶應義塾大学卒業後、劇場コンサルタントとして公共ホール・劇場の管理運営計画や開館準備業務に携わる。2003年文化庁新進芸術家海外留学制度により、アメリカ・シアトル近郊で劇場運営の研修を行う。帰国後、NPO法人STスポット横浜の理事および事務局長、東京大学文化資源学公開講座「市民社会再生」運営委員、㈱ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室主任研究員を経て現職

**土谷　享**（美術家）　よみがな：つちやたかし
1977年埼玉県生まれ、高知県在住。2001年より”もちつもたれつ”をテーマに美術家ユニットKOSUGE1-16の活動を開始し「どんどこ！巨大紙相撲」(2006年～)など鑑賞者を参加者に変質させるアートプロジェクトを多く手がける。2019年より中国・四国Artbrut Support Centerパスレル　芸術文化活動支援コーディネーターをつとめる。

**戸舘正史**（文化政策/アートマネジメント）
専門は文化政策、アートマネジメント。公共ホール、美術館、中間支援機関などでの勤務を経て2018年から2023年3月まで愛媛大学社会共創学部寄附講座「松山ブンカ・ラボ」のディレクターを務める。自治体の文化芸術振興、文化政策に携わる。主に市民主体による自治的な文化活動を展開させていくための制度設計、環境づくりやコーディネート、ワークショップのファシリテーションなどを手掛ける。

**中村マミコ**（OUTBACKアクターズスクール校長）
OUTBACKプロジェクト共同代表。早稲田大学第一文学部在学中よりBankART1929に関わり、街中の空間を芸術活動に生かす方法などを学ぶ。2005年から世田谷パブリックシアターに勤務し、演劇ワークショップの企画制作や、教育普及事業を担当。2012年以降、横浜市内の福祉事業所で支援職として働きながら、芸術活動を障害者支援に幅広く生かす方法を模索。2020年、KP神奈川精神医療人権センターの立ち上げに関わるなかでOUTBACKアクターズスクールの構想を組み立て、現在に至る。

**森　真理子**（厚生労働省 障害者文化芸術計画推進官）
京都造形芸術大学舞台芸術研究センター等での勤務の後、2006年より演劇カンパニー「マレビトの会」プロデューサーほか、フリーランスで舞台・美術などジャンルを横断し企画制作を行う。2009年より京都府舞鶴市にて「まいづるRB」ディレクターを務め、自治体や特別支援学校・学級、福祉施設等と連携したアート事業を多数展開（～2015年）。「六本木アートナイト2014」「さいたまトリエンナーレ2016」プロジェクト・ディレクターのほか、2017年より日本財団DIVERSITY IN THE ARTSにて、多様性をテーマにした芸術祭「True Color Festival」プロデューサーを務める。2022年6月より現職。

# 「この病気にならないと理解できないと思います。どうせ、他人事でございましょう」展

## 「わたしの幻聴幻覚」プロジェクト 2021 年～現在

「幻聴幻覚カード（原画、4 コマ漫画）」
「幻聴幻覚台本」
「映像／幻聴幻覚ワークショップ等」

## 飯山由貴　映像 3 作品

「あなたの本当の家を探しにいく」
「海の観音さまに会いにいく」
「hidden names」

会期（休館日：月曜日）
**2023 年 7 月 13 日［木］― 7 月 30 日［日］**

開館時間（入場は 17：30 まで）
**11：00－18：00**

入場料・ギャラリートーク参加費
**無　料**

## ギャラリートーク

時　間（各回共通）
**14：00－15：00**

進　行
森本しげみ (NPO 法人シアターネットワークえひめ代表理事 )

第 1 回
**7 月 15 日［土］**
話す人
有門正太郎 ( 俳優、演出家、劇作家 )、飯山由貴 ( 美術作家 )、《わたしの幻聴幻覚》関係者

第 2 回
**7 月 16 日［日］**
ゲスト
仙石桂子 ( 四国学院大学社会学部准教授 )　話す人 《わたしの幻聴幻覚》関係者

第 3 回
**7 月 23 日［日］**
話す人
和泉明子 ( ㈱ MIDORIYA 代表取締役 )、富久千愛里 ( 美術家 )、《わたしの幻聴幻覚》関係者

第 4 回
**7 月 29 日［土］**
ゲスト
伊藤義徳 ( 人間環境大学総合心理学部教授 )　話す人 《わたしの幻聴幻覚》関係者

話す人・ゲスト
**プロフィール**　（五十音順）

### 有門正太郎 ( 俳優、演出家、劇作家 )

倉本聰主宰「富良野塾」、泊篤志代表「飛ぶ劇場」を経て、「有門正太郎プレゼンツ」を始動。
芸術劇場「日韓 合同キャンプ～チャレンジ！えんげき～」総合演出、かすがい市民文化財「演劇 × 自分史」作・演出も務める。佐藤佐吉賞優秀主演男優賞受賞（2016）

### 飯山由貴 ( 美術作家 )

神奈川県生まれ。東京都を拠点に活動。映像作品の制作と共に、記録物やテキストなどから構成されたインスタレーションを制作している。過去の記録や人への取材を糸口に、個人と社会、および歴史との相互関係を考察し、社会的なスティグマが作られる過程と、協力者によってその経験が語りなおされること、作りなおされることによる痛みと回復に関心を持っている。近年は多様な背景を持つ市民や支援者、アーティスト、専門家と協力し制作を行っている。近年の主な展覧会：個展 2022 年『あなたの本当の家を探しにいく』（東京都人権プラザ、東京）グループ展に 2022 年『地球がまわる音を聴く：パンデミック以降のウェルビーイング』（森美術館、東京）、2020 年『ヨコハマトリエンナーレ 2020 Afterglow - 光の破片をつかまえる』( 横浜美術館、神奈川）

### 和泉明子 ( デザイナー )

株式会社 MIDORIYA 代表取締役。障がいのある方々のアートをサポートするブランド a lot of OPTiONS 主宰。
1979 年愛媛県松山市生まれ。愛媛大学教育学部中学校教員養成課程美術専攻研究室卒。地元印刷会社で制作の仕事をした後独立。2020 年法人化。デザイナーとして仕事をする中で、障がいのある方々と社会との繋がりの必要性を感じ 2019 年にブランドを設立。主にアート活動をサポートするために展覧会の企画運営、アートの商品化や権利保護の活動をしている。

### 伊藤義徳 ( 人間環境大学総合心理学部教授 )

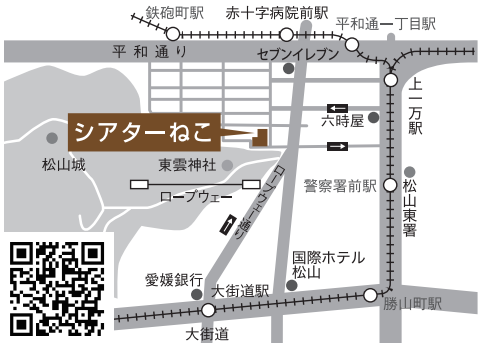
埼玉県出身。1994 年、早稲田大学入学。2003 年、早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。早稲田大学在学中に「劇団木霊（こだま）」に所属。竹井亮介氏、矢柴俊博氏らと共に演劇に関わる。2004 年、琉球大学教育学部講師、2021 年、琉球大学人文社会学部教授を経て、2022 年 4 月より、人間環境大学総合心理学部教授。専門は臨床心理学、認知行動療法、マインドフルネス。

### 仙石桂子 ( 四国学院大学社会学部准教授 )

劇団オムツかぶれ主宰／即興演劇シーソーズ主宰。四国学院大学社会学部演劇ワークショップ実践マイナー准教授。修士（教育学）。2006 年より一橋大学学生相談室職員、2010 年よりタイのシラチャ日本人学校国語科専任教諭を経て、2012 年より現職。専門は演劇教育、インプロ（即興演劇）。現在、小学校・高校、美術館や社会福祉施設、市民向けのワーク ショップや、丸亀少女の家など矯正教育の分野でも演劇教育を実践。2014 年より長編・短編の劇作・演出を手掛け、毎回異なる市民と学生、プロの俳優との共同制作による年 2 本の上演。「即興演劇シーソーズ」は、善通寺市内の飲食店や商店等でインプロ公演を定期開催するなど、劇場内外での公演を通して、地域の人々との交流や演劇文化の拡充に努めてきた。著書に『ドラマ教育入門』（図書文化社、共著）

### 富久千愛里（美術家）

1981 年愛媛県松山市生まれ。2006 年よりさまざまなアルバイトをしつつ絵を描き、個展やグループ展などで発表を始める。7 年ほど額縁工房「額師風雅」（工房メンバーの似顔絵の落書きばかりしていた）で働いたのち「富久だるま道場」として小さなだるまを作り始め、2013 年に道後宝厳寺の復興チャリティーグッズ「もういっぺんちゃん」の制作を担当、現在に至る。イラストの制作や子どもと遊ぶ造形ワークショップなども行い、かなりはちゃめちゃな毎日を送っている。



シアターねこ MAP

会場
**シアターねこ　愛媛県松山市緑町 1－2－1**

問い合わせ先
NPO 法人シアターネットワークえひめ
tel：089-904-5173( 風のねこ )
mail: kazenoneco@gmail.com

駐車場はありません。近隣の駐車場をご利用ください。
※土砂災害警戒レベル 3 の場合は休館